社会福祉法人同胞会 同胞保育園　　# 保　育　課　程　　２０１７年度

保育の理念	子どもひとり一人は、そのままで尊く、人として愛され生きることは、とても重要なことである。 私達は、『隣人を自分のように愛しなさい』 とのキリストの教えを基として、幼な子の心身を健全に育み、豊かな人間性の獲得をめざして保育を行う。　その願いは、子どもの最善の利益と人権擁護にある。
保育の方針	＊子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分にのびのびと発揮しながら活動し、健全な心身の発達を図る。 ＊養護と教育が一体となって、豊かな人間性を持った子どもを育成する。 ＊子どもの２４時間の生活を視野に入れ、家庭との連携を密にして、積極的に子どもの発達過程に応じた育ちを築き、保護者の共感を得て、保護者の支援等を行う。 ＊地域における子育て支援のために、乳幼児などの保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たす。
保育の目標	＊　子ども像　　心の豊かな子ども ＊　基本的、社会的な生活の習慣や態度を身につける。　　＊　豊かな感覚や心情を持ち、自発的意欲的な力を養う。 ＊　個性を発揮して、感じたこと考えたことを伸び伸びと表現する。　　＊　いたわりや感謝する心の成長を育み人と人の結びつきを深める。 ＊　イエスを身近な存在として知ることを通して、見えない神の恵みと導きへの信頼感を与えられ、イエスと共に、日々を歩もうとする思いを培う。

社会的責任	人権尊重	説明責任	情報保護	苦情処理・解決
＊児童福祉施設として、児童・保護者・地域に対して、保育所としての役割を確実に果たす。	＊児童は人として尊ばれる。 ＊児童は社会の一員として重んじられる。 ＊児童は良い環境の中で育てられる。　（児童憲章）	＊保護者や地域の方々に、本園の理念や方針、保育目標を応答的に分かりやすく説明する。 ＊日々の児童の様子や活動の内容を、様々な方法を用いて知らせる。	＊保育にあたり知り得た子どもや保護者に関する情報は、正当な理由なく漏らしてはならない。 （児童福祉法第１８条の２２）	＊苦情解決責任者である園長のもとに苦情解決担当者を決め、第三者委員会をも含めて問題解決にあたる。 ＊苦情の内容、解決方法等の情報を掲示し、利用者に周知する。

☆発達過程

０～５歳児の年齢別９クラス編成（一部０・１混合クラス編成）３～５歳児クラスは計画的に異年齢交流保育を実施する。保育所保育指針並びにキリスト教保育指針及び本園の理念・保育方針・保育目標・発達指針に基づき、年間指導計画を作成する。子ども一人ひとりの発達を踏まえ、養護と教育が一体となった保育を展開する。

☆おもな行事

進級・入園式、卒園式、クリスマス礼拝・祝会、花の日礼拝、プール開き、５歳児一泊保育、夏まつり、平和聖日礼拝、おじいちゃんおばあちゃんお招き会、園外保育、収穫感謝祭礼拝、もちつき大会、節分、ひな祭り、絵画制作展、お別れ遠足

子どもの保育目標

０歳児	＊生理的欲求を満たし生活リズムをつかませる。　　＊情緒の安定を図る。 ＊しっかりとした歩行に向かわせる。探索活動が活発になる。	３歳児	＊基本的生活習慣を身につける。　　＊話し言葉の基本を身につけ、知的興味関心をも高めていく。 ＊仲間との関わりが増え、関係を育てていく。
１歳児	＊様々な運動機能の発達により行動範囲が拡大する。　　＊周囲への関心や保育者との関わりへの意欲が高まる。	４歳児	＊全身のバランス力、体の動きが巧みになる。　　＊身近な環境への関わりが深まり、保育者仲間とのつながりの中で互いに認め合う気持ちを育てる。
２歳児	＊保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。　　＊多くの語彙を獲得し、自我が育ち自己主張をしようとする。	５歳児	＊基本的生活習慣を確立する。　　＊判断力・記憶力の高まりの中で、自主性と自立性を養っていく。

保育の内容

年齢		０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	・一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安全を図る	・一人一人の子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息をとるようにし、快適に過ごせるようにする ・安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生える。	・午睡など適切に休息の機会をつくり、心身の疲れを癒して、集団生活による緊張を緩和する ・安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。	・午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する ・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身に着くようにする。	・午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する ・自分のできることに喜びながら、健康・安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。	・午睡など適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する ・自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
	情緒の安定	・一人一人の子どもの状態に応じて、スキンシップを十分にとりながら心身ともに快適な状態をつくり、情緒の安定を図る ・一人一人の子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る	・一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る	・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る	・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る ・身近な動植物や自然事象に親しみ、自然に触れ十分に遊ぶことを楽しむ。	・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る ・身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わったりなどして生命の尊さに気づく。	・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る
教育	健康	・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常は早く発見し、快適に生活できるようにする	・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする ・保育士と一緒に全身や手や指を使う遊びを楽しむ	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする ・進んで戸外で遊び、十分に体を動かす	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする ・遊具を用いて、ダイナミックな動きを楽しむ。 ・危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する。	・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする ・休息の意味が分かり、その時を楽しむ。
	人間関係	・安心できる人的、物的環境の下で、聞く、見る、触れるなど感覚の働きが豊かになるようにする	・安心できる保育士の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする	・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう	＊身近な人と関わり、集団で活動することを楽しむ。 ・友だちとともにする楽しさを経験する。	・集団あそびの楽しさが分かり、あらたに決まりを作ったり、守るなど協力できるようになる。 ・友だちの気持ちが分かり、喜びや悲しみを共感し合う。	・ひとつのことをみんなで協力し、やり遂げる喜びを知る。 ・年齢差を越えた人々や外国籍の人々など、自分と異なる人々とも親しみ、地域社会や世界にも目を向け、自分たちでできることを考え合い協力する。
	環境	・安全で活動しやすい環境の下で、寝返りや腹ばいなど運動的な活動を促す ・姿勢を変えたり、移動したり様々な身体活動を十分に行えるように、安全で活動しやすい環境を整える	・安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ ・絵本、玩具などに興味を持って、それらを使った遊びを楽しむ	・身の回りのものや親しみの持てる小動物や植物を見たり、触れたり、保育士から話しを聞いたりして興味や関心を広げる	・身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、生活を広げていく。	・身近な環境や自然などに自ら関わり、さまざまな事物や事象と自分たちの生活の関係に気づき、感謝の気持ちや生命を尊重する心を育てる。 ・身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの事物や量・形・文字・時間の流れなどに関心を持つ。	・生活の中で、具体的な事柄を通して文字・数・量・形・時間の流れなどについて興味を持ち、関心を深める。 ・遊具・用具・道具を取り扱うことによって、その仕組みに関心を持ち、考えたり、試したり、日常生活に必要な基礎的技能を身につける。
	言葉	・笑ったり、泣いたりする子どもの状態に優しく応え、発声に応答しながら喃語を育む ・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる	・保育士の話しかけや発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ	・保育士を仲立ちとして、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ	・生活の中で、必要な言葉が分かり、使う。 ・日常の中で、本物と出会い、発見や感動を経験する。	・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・絵本や童話・視覚的教材などを見たり聞いたりして、さまざまなイメージを広げるとともに言葉に対する感性を豊かにする。	・言葉によって自分の思いや考えを伝え合う喜びを味わう。 ・日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。 ・身近な友だちや人々のため、世界の平和のために祈る。
	表現	・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を働かそうとする ・絵本や玩具、身近な生活用具が用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心が芽生える	・身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ ・身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ	・保育士と一緒に人や動物などの模倣をしたり、経験したことを思い浮かべたりして、ごっこ遊びを楽しむ ・興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育士とともに好きなように表現する。	・さまざまな物を見たり触れたり、おもしろさ・美しさなどに気づき、感性を豊かに持つその際の気持ちや感謝などを祈る。 ・感じたことや思ったこと、想像したことなどをさまざまな方法で自由に表現する。	・身近なことに関心を持ち、探す・試す・歌う・聞き合う・見せ合うなど仲間と共有する。 ・自分の気持ちを即興的なメロディやリズムでロずさみ、身体の動きを伴う音楽によって表したり、絵を描いたり、形を作るなどして楽しむ。	・さまざまな心の動きを経験し、その際の気持ちや感謝などを祈りや讃美歌をともに歌うなどで表す経験をする。 ・作った物をあそびに取り込んだり、あそびに必要な物を工夫して作ることによって、表現活動をより活発に展開する。
食育	食を営む力の基礎	・個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めて、健やかな発育・発達を促す ・離乳を進め、様々な食品に慣れさせながら幼児食への移行を図る	・様々な食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気の下で食べることができるようにする	・楽しんで食事、間食をとることができるようにする。	・ランチルームで皆と一緒に食事をしたり、様々な食材を食べる楽しさを経験する。	・食事をすることの意味がわかり、マナーを守りながら楽しく食べる。	・豊かな実りを喜び、神さまに感謝する。 ・「食」を支えてくれる人たちに感謝する。 ・食べ物に関心をもち、食べ物と身体の関係が分かる。
キリスト教保育		・保育者の歌う讃美歌を聴き、一緒に歌ったり祈ったりする。	・保育者と共に礼拝し、祈り、讃美歌を歌う。	・保育者と一緒に祈り、讃美歌を歌ったり、お話を聞いたりする。時には幼児の礼拝に参加し雰囲気を感じる。	・聖書の話を聞く。 ・身近な友だちや人々のため、また世界平和のために祈る。 ・共にいることを喜び、生かされていることに感謝の気持ちを持つ。 ・目に見えないものの存在に関心を示し、受け入れ、知ろうとする。 ・様々な心の動きを経験し、その際の気持ちや感謝などを祈り、讃美歌を共に歌う。		

健康支援□	全園児健康診断（年２回）　身体測定（毎月）　歯科検診（年２回）　日々の健康状態の視診　家庭での健康状態の把握　食育の推進　保健指導（手洗い、口腔衛生）　保健だより・給食だよりの発行　感染症の発生及び対応の広報　異常が認められた時の看護師による適切な対応（病後児保育）
環境・衛生管理	保育室・園舎・屋上プール・周辺道路の清掃　玩具の洗浄・消毒　布団・遊具乾燥　ぎょう虫検査、尿検査（年２回）　職員検便（毎月）感染症の早期発見・周知徹底　衛生管理マニュアルの確認（随時）
安全対策・事故防止	避難・消火訓練（火災・地震・不審者、毎月）　消防設備点検（毎月）　遊具・施設設備安全点検（毎月）　ＡＥＤ操作，救急救命法の受講　事故記録簿の作成
保護者・地域等への支援	保護者会　保育参加（適宜）　個人面談（適宜）　連絡帳による情報交換（毎日）　園だより、クラスだよりの発行　地域育児相談（随時）　園児大会、子育て広場への参加（５歳児）　実習生・中高生職場体験・ボランティアの受け入れ　ウェブサイトの運営
研修計画	日本キリスト教保育所同盟主催研修（新任、中堅、スキルアップ、園長、夏季保育大学）　日本キリスト教保育所同盟京都地区主催研修（京都市内地区保育士対象研修、福島支援研修）　京都府保育協会主催研修（保育一般・給食活動・保健活動・新人職員）　京都府、宇治市主催研修（全般）　その他外部研修（適宜）　園内研修（運営方針・保育環境・その他）
特色ある保育	キリスト教保育の実践　礼拝（毎週月曜日）　キリスト教行事への取り組み（花の日、平和聖日、収穫感謝祭　クリスマス）　同窓会（年１回実施）　体操教室（４・５歳月２回）
小学校との連携	保育所児童保育要録の送付（年長児全員）　各学校公開、運動会、発表会の観覧　保幼小連絡会参加
自己評価	施設理念・保育方針・保育課程の理解　第三者評価結果の理解（利用者調査）　保育士の評価（１～４期反省評価の実施）　保育所の評価（事業計画の策定）